



保 田 師

浅貝流路工と新三国トンネルの進捗状況について

質問

浅貝流路工整備促進については平成17年3月定例会で質問し、前町長から必要不可欠な事業であり今後早期着工に向けて要望活動を行うという前向きな答弁をいただいております。それ以降浅貝町内会では毎年地区の重要課題として事業促進のお願いをしているところでもあります。また、新三国トンネル開削に関して平成15年19年と2回にわたりの開削促進についての質問を行っております。しかし、いずれも重要課題でありながら現在まで明確な進捗状況が示されておられません。その進捗状況と今後の町の取り組みについて伺います。

町長答弁

浅貝川向山橋上流部につきましては直轄砂防事業での取り組みが計画されておりましたが、諸般の事情により現在中断されており、河川整備が進んでいないのが現状であります。平成18年11月に地元皆さん、湯沢町、砂防事務所の三者で意見交換の場を持った折、地元の皆さんの河川整備についての基本的な考えや、地域活性化のための整備促進を強く要望されていることを伺っております。今後町としては、再度たき台になるようなイメージを地元の皆様にまとめていただき、話し合いの場を持ちたいと思っております。

国道17号線新三国トンネルの新治村と新三国トンネル

開削促進既成同盟会を組織し、関係各省に要望活動を展開しているところであります。平成4年の整備調査から今だ調査のみとなつているのが現状であります。今年度の予算では新三国トンネルを含む一般国道17号三国防災区間で2億2千万ほどが確保されたということとこの事業の進捗につながるものと期待しているところでもあります。今まで国道事務所長に地元の皆様と議会が町として単独で要望活動を実施してきた経緯もあります。昨年11月には水上町と合同で国土交通省、財務省、地元選出国會議員などに要望活動を展開してまいりました。今後も早期な事業促進に向けて更なる要望活動を行ってまいりたいと考えております。

質問

保育行政の今後の方針について

毎年湯沢町の人口も激減の一途でその要因の一つが出生数の減少であることは明白であり議会でもこの問題を大きく捉え3月議会で少子化対策特別委員会を設置しました。現在当面の問題として中学校建設、それに伴う小学校統合問題などが議論されておりますがそれらは建設検討委員会に於いて様々な角度から検討されております。しかし、保育行政に関しては明確な町の取り組みが見えておりません。将来的には保育所統合同も避けて通れない問題であるはずですが、そこで今後の保育行政にどのように取り組むつもりか、伺います。

町長答弁

少子化が進行する中で、核家族化や女性の社会進出などに伴う家庭での保育力の低下などより一層の子育て支援が求められていることから家庭、地域、保育園の連携を更に深め心身ともに子供たちが健やかに成長できる環境をつくる必要と考えております。具体的には平成20年3月に改定された保育システムを実践することで役割を果たしたいと考えております。また、今後も多様化する保育ニーズに対応するために、乳児未満児保育、延長保育、休日保育の更なる充実のための検討を行います。



浅貝川向山橋より上流